



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/20 (月)	+ 900	+ 5,500	+ 6,400	国庫短期証券 発行・償還 (3M) 国庫短期証券 発行・償還 (1年)	CP等買入 ▲ 300 社債等買入 ▲ 100 被災地支援 ▲ 1,300 補充供給 + 55,300	国債買入 + 300 被災地支援 + 300	I-0圏：消費者信頼感指数 (2月)
2/21 (火)	トシ	+ 4,000	+ 4,000				
2/22 (水)	トシ	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (20年)			米：FOMC議事要旨 (1月31日、2月1日開催分)
2/23 (木)				天皇誕生日			米：GDP (4Q) I-0圏：CPI (1月)
2/24 (金)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000				日：全国CPI (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初516兆4,900億円から始まり、15日には年金定時払いにより524兆9,200億円まで増加した。その後、国債買入れオペや国債発行があったものの、大きな変動はなく524兆4,400億円で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初△0.035%から始まり、1月積み期最終日の15日には着地に向けた調達ニーズの高まりから△0.026%まで上昇した。2月積み期に入り、マクロ加算残高にかかる基準比率が大幅上昇 (53.0%→61.0%) したことを受けて、積極的な資金調達が行われた。積み初日である16日の加重平均金利は△0.010%となり、週末3日積みとなる17日には△0.007%まで上昇し、越えた。

ターム物は1W～2W物を中心に、主に△0.020%～△0.005%の水準で出が見られた。

政府は14日、次期日銀総裁に経済学者の植田和男氏、2名の副総裁に日銀理事の内田眞一氏、前金融庁長官の氷見野良三氏を充てる人事案を国会に提出した。

来週の主な予定は、24日に全国CPI (1月)、海外では23日に米GDP (4Q)、I-0圏CPI (1月) が公表される。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<レポ>

足許GC取引は、週初▲0.095%～▲0.085%の出合いから始まった。新積み期入りする15日の取引では▲0.08%台の出合いが中心、短国3Mの入札日となる17日の取引では▲0.07%台まで上昇した。SC取引は2年435～444回債、5年146～155回債、10年350～369回債、20年179～183回債、30年65～77回債、40年13～15回債などに引合いが多く見られ

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,300億円で、週間償還額 (約8,100億円) を上回った。発行市場は電気機器や化学業態等で大型の案件が見られたものの、週を通して発行件数は限定的であり落ち着いた展開であった。発行残高は先週末時点の27兆6,555億円から16日時点で27兆2,722億円に減少した。発行レートは、期内案件や発行頻度の少ない銘柄の発行案件に対しては概ね落ち着いていた。一方で、期越え案件については引き続き高止まり傾向が続くものの、日銀総裁人事や金融政策の方向感に関する不透明感がやや緩和したことから、足許では期越え案件に対するレート水準の落ち着きどころを探る展開となっている。

来週の週間償還額は、約2兆9,000億円となっている。発行市場は5・10日スタート絡みの発行や月末日の大量償還 (約2兆3,200億円) に対するロール発行が見込まれることから活況を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。22日に、CP等買入れオペが4,000億円程度オ

<TDB>

2月16日の1Y (1139回債) の入札は、最高落札利回り△0.859% (前回債△0.0318%)、平均落札利回り△0.0959% (前回債△0.0616%) となり、17日の3M (1140回債) の入札は、最高落札利回り△0.1358% (前回債△0.1545%)、平均落札利回り△0.1526% (前回債△0.1649%) となった。

来週は24日に3Mの入札が予定されている。